

自著と
その周辺

Dorsal Rhizotomy: Neurosurgery for Childhood Spasticity

Publisher Springer
定価 約20,000円(発行時)

この本の題名を訳すと「後根切断術：小児痙縮の脳神経外科治療」となります。術式はいくつかあり、僕自身は機能的後根切断術と呼んでいます。一般的には選択的後根切断術が使われ、そのほかの術式もあるので、ここでは「後根切断術」として包括しました。

後根切断術とは、中枢神経系の損傷・機能障害によって生じる筋緊張の亢進（痙縮）を治療する手術です。主に脳性麻痺小児に適応されますが、そのほかの脳炎後・虚血性脳損傷後の小児も対象となります。手術では、腰仙部（L2～S1/2）脊髄神経後根を神経根細糸レベルで切断します。この本では、後根切断術をこれから始める医師を念頭に、神経生理学的背景から各種術式、術前・後の運動機能評価・訓練、長期手術成績まで現時点で最新の情報を伝えることを目標に編集しました。結果的には経験のある医師からも高い評価を得る内容となっています。

出版までの経過は以下のとおりです。僕は国際小児神経外科学会の機関誌 Child's Nervous System（以下 ChNS と略）の Associate Editor をこの10年あまり勤めているのですが、2020年に痙縮治療の focus session の編集を任されました。この特集の評判が良かったことと、後根切断術関連の投稿論文増加を背景に、ChNS Editor-in-Chief の Di Rocco 先生から後根切断術の本の編集を勧められたのが2023年の年初になります。僕の繋がりだけでなく、前年度 Zoom 開催されたパネル演者を中心に chapter を構成し、企画書を Springer Nature に提出。僕自身、英文書籍の編集は初めてだったので、この分野の大御所 Steinbok 先生（Vancouver 小児病院）を引きずり出して共同編集者になってもらいました。引退したばかりと当初は固辞されたのですが、事務・雑用は僕がやるので supervise してくれれば良い、という条件で引き受けてもらいました。分担執筆者を改めて検討し、最終決定後に執筆依頼をしたのが2023年5月。当初の締切は年末の12月です。しかし、引退のため執筆を受けてもらえなかったり（History の chapter はそのため僕が執筆）、また10月に Hamas 襲撃による Israel の Gaza 侵攻のため Israel の先生が執筆辞退され、最終的に Part 1～5 で全18 Chapter 構成となりました。

執筆者の背景は欧米中心ですが、南アフリカ・オーストラリア、そしてアジアからは僕の1番の親友でありライバルでもある国立上海小児医療センターの Xiao 先生に執筆していただきました。書籍の性格上、執筆者は脳神経外科医の他に Rehabilitation 医師・Physical therapist が含まれています。僕は全部で4 Chapter を分担執筆、それプラス Preface も起草。Preface と Introduction は Steinbok 先生との連名です。

これまでの自分の経験では邦文・英文問わず Book chapter 分担執筆の際に提出論文の書き直しを依頼されたことはなく、楽ではあったけどそれはそれでおかしいと感じていました。そのこともあり、今回は全ての chapter をまず僕が review し、それを Steinbok 先生に確認・追加修正していただいた上で著者に返送・再提出してもらいました。内容によっては執筆者と Zoom で議論することもあり、大変でしたがいい経験になりました。当然ながら締切は遅れに遅れ、最終的に Springer に全部の原稿を届けたのが2024年年末。Springer の編集担当（とにかく優秀でした）と連日の email で最終校正して2025年5月の出版にこぎつけました。

後根切断術の主な対象となる脳性麻痺は医学レベルに関係なくほぼ1,000名に2名の割合で発生します。国内でもこの5年余りの間に手術を実施できる小児専門施設が増加してきていますがまだまだ、というのが実感です。痙縮治療にはこの他にもバクロフェン髄注療法がありますが、高額かつ定期的補充が必要という医療経済的負担があります。世界に目を向ければ、発展途上国での必要性は高く2023年にはモンゴルで、また2026年年明けにはマレーシアで最初の手術に向かいます。自分が小児神経外科医を目指した時、最初に目標にしたのがこの手術を日本でできる様にしたい、ということでした。そのために留学し、帰国後最初の手術を行って30年、紆余曲折もありましたがこの間250名以上の患者さんに手術してきました。この本が国内外で後根切断術を始める小児神経外科医、障がい児医療に携わる全ての医療関係者に役立つことを願っています。

（北里大学病院脳神経外科 師田信人）

